

子どもの内的世界への 保育者のかかわりに関する研究 (I)

○寺見 陽子 名須川 知子 白砂 由香里 黄金花 平岡 尚子
(神戸親和女子大学) (兵庫教育大学) (安田女子大学) (兵庫教育大学) (兵庫教育大学)

【目的】 保育は、保育者と子ども、子ども同士、日々新たに出会い、ある特定の関係性を作りあげていく営みである。ランゲフェルド(1974)によると、この出会いは「相互に深い慎みをもちながら、しかもそのような人格的関わり合いのできる一個の人格として他者に相對すること」であり、出会いにおける両者は、それぞれ孤立した「二つの主体(SUBJECT)」でなく、互いに共通の志向によって結ばれ合った一個の「共同主体(CO-SUBJECT)」であるとしている。つまり、保育者と子どもは相互主体性(自己の主体性を他者のそれに合わせる)を持ち、その関係性とは、相互の主体性が調整される過程と言えよう。したがって、子どもと保育者のかかわりを考えるとき、相互主体的関係の調整がどのように実現されていくか、その過程を見ることが重要になる。保育者からすれば、いま出会った目の前の子どもが、この瞬間の世界をどの様に感じているのかを読み取り、相手の主体にどこまで迫れるかが問われる。津守(1974)が、子どもの行為は内的世界の表現であり、保育という人間現象は子どもの内的世界の省察によって真に解釈されると説いているのも理解される。

本研究では、こうした観点から、いまここで出会って共有された世界を通して、かかわりのもつ意味と子どもの内的世界について考察することを目的とする。

【方法】 自由記述による観察記録と観察者の内的感情体験記録から取り出したエピソードの省察による。

【事例と省察】 (注：私＝観察者)

◆ふいにかかわる一身体の延長としての物にふれる

R男(3歳児) R男は、先生と遊んでいる。気づくと長縄を持ってこようとしている。私が、すかさずその長縄の端を持って引っ張ったので、綱引きが始まる。引っ張ったり急に力を抜いたりすると、R男は、顔をくしゃくしゃにして笑顔をみせる。

《省察》 私は、R男の顔に表情がなく一度も声を聞いたことがなかったので気になっていた。前回は、積極的に関わっていき、かくれんぼやどんぐりのあてっこをして遊んだ。今日も彼を中心に関わって行こうと彼に気づかれないようにときどき見るが、なかなか関わるきっかけがみつからない。縄の端をつかんだこと

がかかわるきっかけになる。R男は取られまいと引っ張り、自然に綱引きへと遊びが動く。引っ張り合ううちに堅い表情が緩んで、くしゃくしゃの笑顔になる。私は、この子どもにこんな無邪気な笑顔があることに驚く。思わぬ反応である。今まで、R男の世界の入り口に触れても、なかなか中に入れないと感じていたが、この笑顔でR男の世界へ入るきっかけをつかんだように思う。縄はR男の体の延長にあり、それをつかんだことで彼の体に触れたことになったのであろう。彼の世界に私の存在が見いだし、とてもうれしかった。

◆目と目を合わせる一視線でふれる

M子(3歳児) 5人の3歳児が、私を交えて鉄砲で遊んでいる。M子は一人黙々とままごとをしている。私が鉄砲に撃たれている最中でも、M子は私と目が合うとにこっとする。最初はホットケーキ、マグヌードル、花の蜂蜜入りシチュー、葉などでできあがる毎に持ってくる。鉄砲で他の3歳児と撃ち合いをしている途中でも、私はM子の料理を食べる。その時ばかりは撃ち合いも止まり、他児は静かに私を見ている。「おいしかったよ」と言うと、M子は笑顔で戻り、再び料理を作り始める。他児との撃ち合いも、再び始まる。

《省察》 私は、最初から部屋の奥で黙々とままごとをしているM子がなんとなく気になる。M子は、他児達が私と一緒に遊んでいても、一人料理を楽しんでいる。M子も作った料理を食べてもらいたいのか、私に持ってくる。同時に2つのことはできないので、片方は止まってしまう。他児達は文句も言わず、私がM子の料理を食べ終わるのを待つ。続きをしたいと思いますと思うのだが、誰1人何も言わない。鉄砲遊びの1コマにM子の料理が入る。同じ遊びをしているかのように一体化している。私がM子の料理を食べたことで、M子もまた作ろうという気持ちを持ったのだろう。

私が各々の子どもに触れ合うことで、各々の遊びも再開していく。M子は、鉄砲よりもままごとの方に興味があったのだろう。好きな遊びをするとき、人に流されることなく熱中できる子どもの姿を見た気がする。

◆心もちを感じる一居場所の空間を作る

M男(3歳児) 「K男くんが僕のブロックを壊した」といって泣きながら廊下にいる私の側に来る。私がしゃがんで「どうしたの」と言うと、膝の上に座り泣き

続ける。

《省察》 M男は、自分が作っていたブロックをK男に壊されて心がしぼんでいる。このしぼんだ心を誰かに預けたい気持ちだったのではないだろうか。私は、そう考えて泣きやむまでしばらくじっと何も言わないでM男を見守っていた。私のしゃがんだ空間が、M男の座る空間になり、M男の居場所となる。そして、その小さな空間で私とM男は同じ世界を共有していた。

◆はっとする一こちらの空間が破られて気づかされるE子(3歳児) E子は縄跳びを跳びながら、他児を見ている私の所にやってくる。そして、私の顔をじっと見つめる。私は一瞬何かかなと思うがすぐに「あっ、縄跳びを見せに来たんだ」と感じ「すごく上手に跳んで走ってきたね。」という、ニコッとして走り去る。《省察》 この時、私は他児の行動に目を奪われて、E子の動きに気づいても近づいてきた心には気づかなかった。E子は私が気づくまでじっと見つめて待っている。はっとするその一瞬がなければ、子どもに向う時を失っていたかもしれない。子どもの心は、思わぬ時に、こちらがあれこれ画策しない時に、ずっと近づいてくるのだろう。その瞬間は、多分その子どもにとって近づき易い、こちらの心の自然な心持ちの時なのかもしれない。

◆満たされた空間を感じる一沈黙を味わう

A男(5歳児) A男はアンパンマンを抱き、保育室の隅から静かに遠くの他児達の活動を見る。A男の姿には、自ら活動しようとする態勢は見られない。静かに沈黙して、外の世界に食い込まれているように見える。

A男は、先生の「おいで」の掛け言葉に応じて動き、ただ他児達の製作活動を見る。時々他児に近づき、ビニール袋に描かれた模様をじっくり見る。私は、A男に「何か好きな動物でも描いたらいいわね」と言う。A男は黙ったままである。しばらくしてから、A男はビニール袋の上に何かを描き始める。私は他児への対応に忙しく、それを近くで見ることができなかった。

《省察》 私とA男との出会いは、これが二度目である。他児に声かけたれたり一緒に遊んだりする姿を見たことがない。当初、口をきかず無反応なA男に対してどう働きかけたらよいのか本当に迷う。A男の手を引いたり安心感を与えたり暖かい視線を送ったりするが、A男は無表情なままで反応しない。

この日は少し意識しながらも、ほとんど沈黙の時を共に過ごす。A男に「何か好きな動物でも描いたらいいわね」といった後、言葉は交わされないが満たされた空間を感じる。しばらくして描き始めたA男の様子

を近くで見ることができなかったが、A男の秘めている静かに沈黙した世界は、閉鎖され孤立したものではないと感じる。自分に取り組む世界へのかかわりの可能性がみられ、A男が求める何かがすでに表現されようとしている。困惑したとき、積極的に引き出そうとするより、流れに沿って一歩ひき子どもに向かって心を開いて保たれる関係の中で子どもの気持ちに目を向け、見守ることの重要性を感じる。

◆拒否を受容する一地と図を変化させる

S男(3歳児) 登園してきて、私がいる事に気づくと表情をこわばらせ「覚えているか」となぐりかかる。

《省察》 「覚えているか」というのは、前回の出来事のことである。年長組のグループに混じって、年少組のS男と私は遊んでいた。彼らは、私をたたいたりけったりする。初めはさりげなくかわしていたが、彼らがますますエスカレートしてきたので我慢できなくなり怒ってしまう。リーダー格のN男を捕まえて真剣に言い聞かせるが、N男は私の腕から抜け出す事ばかり考えている。私はこの状態をどう処理してよいかわからなくなり、しだいに本気で怒れなくなる。帰るとき、私の靴の中には砂が一杯入っていた。

S男はこの納得できない未消化の気持ちを私にぶつけてきたのである。それ以来、S男との朝のあいさつは、「覚えているか」で始まる。私は、それを聞く度にまだ受け入れられていないと心が冷たくなったが、ある日から「覚えているか」という声に「おはよう」という響きが重なって聞こえるようになった。そして、靴の中に入れられた砂は、私の対応への抗議であったのだと思えた。本当は帰って欲しくない、興味があるからかかわっていきたくかった、怒らずに気持ちを察してつき合って欲しかったという、私の対応への抗議であったのだと思えた。私の見方が変化したことでS男との距離が縮まり、彼の世界の中にはすでに受容されていると感じられるようになった。

【結語】 人は、自分の意志によって感じるのではなく、人にふれて感じさせられている(津守、1974)。本省察から、子どもの内的世界への保育者のかかわりは、保育者の主体的自己表現が子どもの心持ちに沿って調整されたとき可能になると推察される。それには、保育者があるがままの心で子どもにふれることの重要性が指摘できる。また、子どもと共有された空間は、あるがままの心の延長であり、その意味で環境とは、子どもと保育者の間主観的世界として構成されてくるものなのではなかろうか。